

社会福祉法人 隠岐共生学園

所在地：島根県隠岐郡隠岐の島町栄町1088
 代表者：理事長 名越 彰
 創業：1924年（大正13年）
 事業内容：社会福祉（介護・保育）
 従業員数：566名（男性146名、女性420名）
 URL：http://www.kyousei.gr.jp/



「職員食堂」の開設で 3つの課題解決に挑戦中！

取組みのきっかけ・背景

人材の新規獲得が困難になっていく中、今以上に“働きやすさ”を向上し離職防止や定着へと繋げる必要がありました。

そこで、以前からの離職理由を顧みたと、キーワードとして“人間関係”“体調不良”“モチベーション低下”があがり、この3つのキーワードをもとに改善策を検討しました。

スタッフにヒアリングを行った結果、昼食をインスタントラーメンや、菓子パン、中には買いに行くのが面倒という理由で食べていないスタッフがあり、食事情が体調を崩す原因の1つとなっているのが分かりました。

さらに、それぞれのキーワードに対応するよりは、欲張って1つの方法で3つとも改善できないか考え、『職員食堂』の開設を行ないました。

取組みの内容

内容としては、まず“体調不良”に対して当法人の管理栄養士による献立において提供しています。きちんとした時間にきちんとした食事をとることによって体調の改善を図っています。

“人間関係”や“モチベーションの低下”への対応は、食事は必ず食堂内で行なうことにしました。

それは、今まで他部署や他施設間とのコミュニケーションの場がなかったことで、お互いのことを知らない状態で業務を行っていたこともあり、“人間関係”の悪化につながっていたと考え、共に食事を通して出来るコミュニケーションの場を創りました。

浸透・定着への取組み

浸透に関してはさほど難しくはなく、定着させるには「食べたい！」と思うメニューの提供が必須でした。そこは、栄養・調理スタッフが丸となって応えてくれました。さらに、毎月一回は、『スペシャルデー』と称し、豪華なメニューを提供しています。クリスマスにはスイーツバイキング、春はお花見弁当等、工夫を凝らしています。詳しくは、法人ホームページにも載せていますのでそちらでご確認ください。



取組み効果・社員の变化

スタッフからは、「健康診断で指摘があった項目が少なくなった。」という声や、「食事が提供されることで、昼休みに体を休める時間が長くなりよかった。」という声もありました。

何よりコミュニケーションの場として浸透した結果、「いろんな人の考えや性格を知ることが出来て良かった！」という声を耳にした時は、喜びました。おかげで、“人間関係”で退職する職員はゼロ化に向かっています。

今後の課題・展望

ズバリ課題は継続です。

作り手と食べる側とのバランスを保ちつつ、クオリティの向上を図っていくことで継続していかなければなりません。負担の偏りや、飽きさせないことなど課題は多々あると思いますが、都度スタッフの意見を聞いて柔軟に対応することで継続していけると思います。

展望といたしましては、スタッフだけではなく、地域の方同士、また地域の方とスタッフのコミュニケーションの場としても活用していきたいと考えています。



職員の声

職員食堂がある日はほぼ毎日利用しています。夫も利用しているので、朝2人分の弁当を作る時間を他の事に使えることがありがたいです。食堂のおかげはボリュームがあり、肉も野菜もバランスよくとれるのでとても嬉しいです。

毎日違うメニューなので飽きることもありません。また、季節のイベントに合わせた特別なおかずやデザートが出る日や、バイキング形式の時もあり、毎月のメニュー表を見るのが楽しみのひとつになっています。また、普段部署が違う職員とも同じテーブルで食事ができるので、仲の良い職員と一緒に食べた時は会話をしながら食事が出来て楽しいです。

特別養護老人ホーム 静和園 作業療法士 吉田 侑紀



派遣専門家のコメント

課題解決施策において、過去・現在・未来の過程で、原因から結果（課題）へ、結果（課題）から“あるべき姿”（社員食堂）の必要性へと具体化し、“ありがたい姿”（人材の新規獲得）へ向けた“あるべき姿”（働きやすさ）に結び付ける展開そのものが自然とプロセス化していることは大きな組織では特に価値あることです。あわせて、その大きな組織をまとめていくリーダーシップの姿は並々ならぬものであると認識しております。今後とも“ありがたい姿”に向けた“あるべき姿”のプロセス化施策の具体的進展を期待しております。

特定社会保険労務士 安達 和生

